



海外・現場
最前線からの
便り



マレーシアはマレー系、中華系、インド系などで構成される多民族国家であり、言語、宗教、食文化などが異なる民族同士が、互いを尊重しながら調和して暮らしているのが魅力的な国です。人口の約7割をマレー系が占めており、国語はマレー語で

マレーシア

東南アジア・イスラム市場への

入口として魅力的な国

ですが、異なる民族同士のコミュニケーションでは英語がよく使用されており、英語が広く通じるといった特徴もあります。また、国教は主としてマレー系の方々信仰するイスラム教となりますが、信教の自由が認められており、仏教、キリスト教、ヒンドゥー教など、様々な宗教が信仰されています。各々の宗教行事毎に祝日が行われており、マレーシアでの生活はまさに多様性を体感できるところに面白さがあります。



マレーシアを代表する「ブルーモスク」



ヒンドゥー教の聖地「バトゥ洞窟」

また、マレーシアは、比較的高い所得や民族・宗教の多様性、英語でビジネスが可能などから、海外展開に向けたテスト市場・拠点としても魅力的であり、マレーシア政府もイスラム経済や食品・ハラル分野でのハブとなることを進めています。日系企業が、イスラム市場への入口として捉えて進出することも多く、日本からマレーシア向けの農林水産物・食品輸出額は過去5年間で2倍以上に増加しました。林産物

食品に関することは何でも扱っており多岐に渡りますが、主要な業務の一つとして、農林水産物・食品の輸出拡大が挙げられます。具休例として、日本政府は、日本産農林水産物・食品の有望な輸出先国において、在外公館及びJETRO海外事務所等を構成員とした「輸出支援プラットフォーム（以下、PFと記載）」を設置し、輸出拡大に向けた事業者への支援等を行っています。が、本年5月、イスラム圏初のPFをマ

関係では、ホクト株式会社がマレーシアに工場を設立しており、ブナシメジ等のキノコを生産、マレーシア国内に販売するとともに東南アジア諸国に輸出しています。さて、私は在マレーシア日本国大使館で食産業担当官として働いています。業務は農林水産物・



外務省在マレーシア日本国大使館 二等書記官
谷貝 勇樹



左から2番目：アーサー・グループ農業・食糧安全保障副大臣
左から3番目：高橋農林水産大臣政務官(当時)



マレーシア輸出支援プラットフォーム立ち上げ式

そのほか、森林・木材分野の話題についてもご紹介したいと思います。マレーシアはその豊かな森林生態系も魅力の一つになりますが、木材分野においても国際市場を



マレーシア最古の国立公園「タマンネガラ」

マレーシアに設置しました。大使公邸で開催した立ち上げ式には、高橋農林水産大臣政務官(当時)、マレーシアのアーサー・グループ農業・食糧安全保障副大臣に出席いただくとともに、当地の食品関連事業者など約120名に参加いただきました。マレーシアPFでは、農林水産物・食品分野の国際展示会への出展支援などの取組を通じて、日系企業の進出を後押ししていきます。



フタバガキ科の大き木が観察できます



東南アジア最大のBtoB向け家具見本市「マレーシア国際家具フェア」

主戦場に捉えた政策を推進しています。例えば、マレーシアで製造された家具の80%は海外市場向けになりますが、2025年までに家具を含む木材・木材製品の輸出額を280億リンギット^{※1}とする政策目標を立て、MTC S 認証^{※2}の取得や製造技術の高次化、投資促進の面で積極的な支援を行っています。

成長する東南アジア市場・イスラム市場の入口として魅力的なマレーシアに今後とも注目していきたいと思えます。

※1 9,735億円(1MYR=34.77円で換算)。2023年実績は218億リンギット(7,580億円)
※2 マレーシア木材認証制度。PEFCと相互承認している。